



南高 Forever

File012 04.2022

滝村 聡 宏 氏

旧職員  
札幌北高校教諭

## 「この学校で良かった」を

### 追い求めた南高での日々

一昨年度から様々な取組を行っている本校。「この取組を十年前に行っていたら、閉校にならずに済んだのではないか」とおっしゃっていた聞いています。

閉校を防ぐことができた実践であると評価いただいているのはありがたいのですが、十年前も熱い気持ちで本校の学校改善に取り組んでいた教職員が数多く存在していました。今回は、そんな中から本校のキャリア教育の基盤をつくってこられ、現在は札幌北高校定時制課程に勤務されている滝村先生にお話を伺いました。

滝村先生が赴任された当時、町内からの入学者より「進学できる学校は他にない」と言われた町外からの入学者が多く、中にはよくない行動をしていた生徒も少なくありませんでした。それでも手厚い指導が実

を結び、卒業式での「この学校に来て本当に良かった」という言葉に勇気づけられ、もっと本校を良くしなければと決意を固めていかれたのだそうです。

先生は新任のときからずっと、学校の基本となる授業に力を入れてこられました。「生徒とのやり取りを通じて授業をつくる。生徒と協働しながら一体感をつくって知識の定着を図る」という方針は本校を離れてからも変わらないとのこと。中学校までの学びでつまづいた生徒にわかる喜びを感じさせるなど、本校でもがんばってきたことが今も役立っていると語られます。

先生は、本校の学校改善のためには、進路指導をこ入れする必要があると考へ、進路指導部長として四年間、キャリア教育の充実に取り組まれます。

文部科学省からの就職指導の改善研究指定校や北海道教育委員会からキャリア教育推進事業研究指定校などさまざまな研究校の指定を受け、本校生の進路実現のために尽力されてきました。

その後は教務部長として三年間、進路実現のためにも基礎基本をしっかりと定着させたいと考え、教育課程の改善に努めてこられました。

しかし、残念ながら固定



化されたイメージを覆すところまでには至らず、歯がゆい思いをされていたそうです。

南幌高校で一番印象に残っていることは、オーストラリアへの短期研修とのことでした。

英語が堪能なわけではなかったものの、クラスの生徒が二名参加することから生徒三名の引率者となりました。オーストラリアの英語はすこし独特のなまりもあって、会話に困難を感じることが多かったとのこと。

出発してみると、三年前に実施したときの旅程をもとに計画されていたものの、業者の確認ミスもあり、成田空港の発が二時間早まったこと、機内で気圧の変化から体調を崩した生徒がいて、心配でその後仮眠もとることができなかったこと、プリズペン直行便だと思っていたものの、乗継便

でケアンズに到着し、あわや乗継をしないまま空港から出てしまいそうになったことなど、今だから笑って話せるたいそうな珍道中の連続でした。

やっこの思いでオーストラリアに到着してからも、干ばつのオーストラリアで風ではなく雨だけで傘が壊れるほどの豪雨にも見舞われたのだそうです。

よくぞご無事に帰国されたと思います。先生は十年以上前の経験であったにもかかわらず、いまだに夢に見ることがあるそうです。

〈南高生への伝言〉  
高校までは、皆同じようなキャリアを重ねていきますが、高校の次の進路はあなたの自由意思でさまざまな選択ができません。もし、美容師の専門学校を選んだのなら将来は美容師になっっているでしょう。パン製造の企

業へ就職すれば、当たり前のようにパンをつくる仕事が続いていきます。高校時代の選択があなたの人生を形成します。そして選んだ進路先で、新たな出会いと経験を積んでより良い人生を送ってください。

滝村先生は、本校を離れ、大野農業高校で三年、札幌北高校定時制課程で四年目とされます。そして、今年度末で定年退職とされます。現在、四年生の担任をしておられるそうで、本校閉校のタイミングで生徒を卒業させ、教師としても一区切りとなるということ、何かしらの縁を感じるとおっしゃっておられました。

本校六十四年間の歩みは本校のためにと尽力いただいた先生たちの努力の結晶でもあるのです。